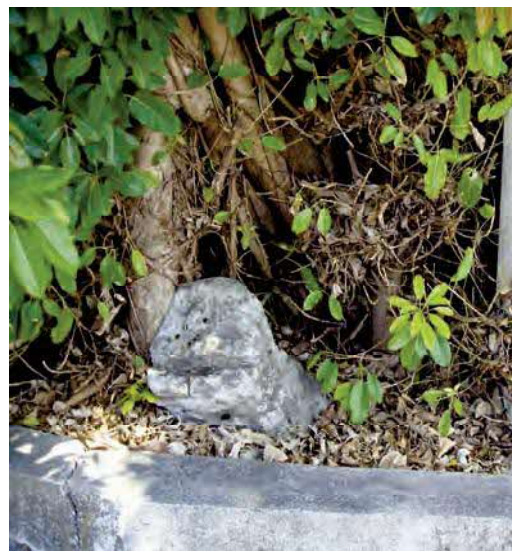


概要版

目次

1	位置づけ	2
2	期間	2
3	対象区域	2
4	回遊観光の目指すべき姿	3
5	回遊観光基本方向	3
6	整備方針	4
7	目標値	4
8	回遊コース（モデルコース）と重点資源	5
9	個別整備計画と回遊観光プラン	6
10	推進体制	8



勝連城跡周辺 回遊観光整備基本計画

平成27年3月
うるま市

自然や景観、歴史・文化等を地域全体で楽しむ「屋根のない博物館」を目指して



1 目的と位置づけ

本計画は、世界遺産である「勝連城跡」周辺の歴史・文化的資源を活かした回遊路の創出を目指し、良好な地域景観に寄与する回遊路・地域資源・観光サイン・休憩施設等の整備及び周辺回遊計画の検討をするとともに、当該回遊路が本市を訪れる観光客に広く利用されるものとなるための管理・運営体制構築の検討を含んだ基本計画とします。

本計画は、勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画（平成 25 年 12 月策定）の推進施策⑰：「南風原集落の資源の活用と回遊ルートの創出」に基づき、回遊観光の視点における整備計画として位置づけられます。

勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画（平成 25 年度策定）

推進施策⑰ 南風原集落の資源の活用と回遊ルートの創出

勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画

整備計画

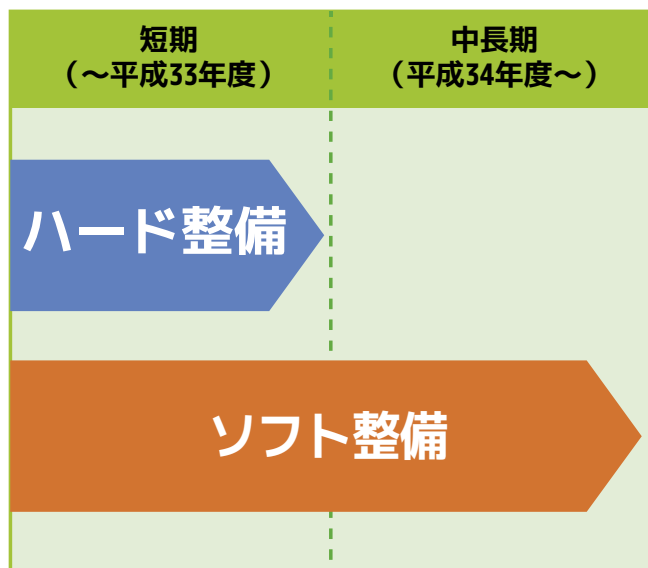
周辺回遊計画

管理・運営体制

2 期間

本計画ではハード整備の計画期間は概ね 7 年間（平成 33 年度まで）と定め、ソフト整備の計画期間は期限を定めません。

ただし、計画の進捗状況や社会情勢の変化などにも的確に対応しながら、必要に応じて計画内容の見直しを行うものとしします。



3 対象区域

本計画の対象区域は、うるま市南風原地区とします。ただし、州崎地区は除きます。



4 回遊観光の目指すべき姿

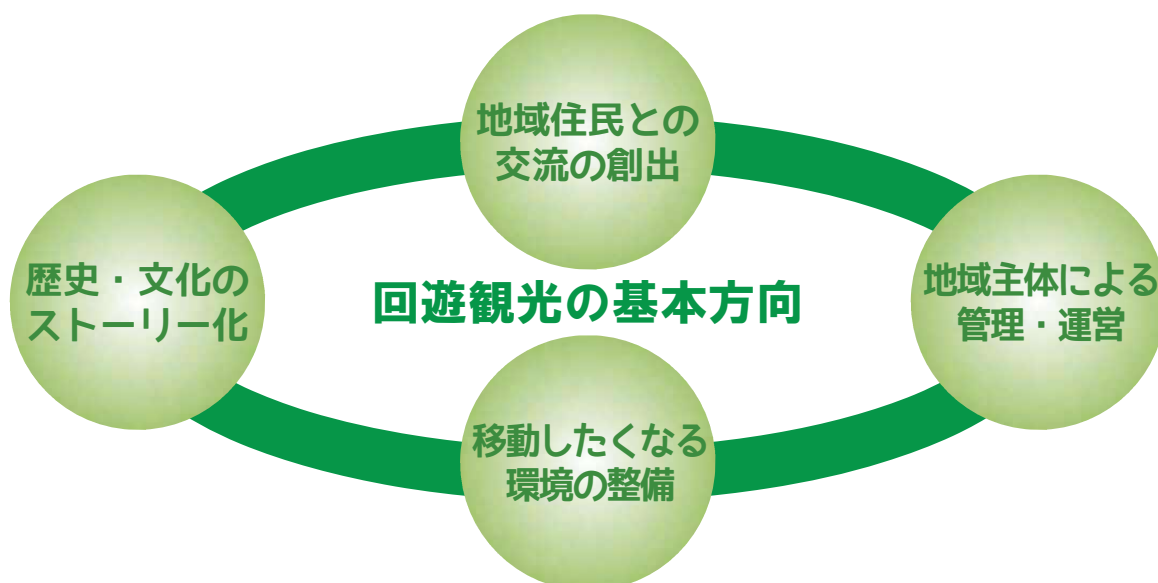
「観る」が主になっている観光を解決するために、「体験（食べる、歩く、学ぶ、創る、触れる）」を導入して、勝連城跡を訪れる観光客に「楽しんで」もらい、滞在時間を延ばし、観光客の消費の拡大につなげます。これらの観光客が「楽しむ」、「滞在時間の延長」、「消費の拡大」をすることが、回遊観光を創出する意義です。

勝連城跡周辺の回遊観光の目指すべき姿を、自然や景観、歴史・文化など地域全体を楽しむことができる『屋根のない博物館』としてを目指します。



5 回遊観光の基本方向

地域特有の資源を地域全体で楽しめる「屋根のない博物館」の実現を目指すために、回遊観光の4つの基本方向を定めます。



6 整備方針

地域特有の資源を地域全体で楽しめる「屋根のない博物館」を目指すために、古から受け継がれてきている「肝高（きむたか）」*の精神を感じる回遊観光まちづくりを推進することが必要です。

勝連城跡周辺の良い景観や自然、史跡などの多様な地域資源や地域住民との交流の活用を促すために、地域住民や市民団体等の多様な主体が参加・活動する場を「舞台」として位置付け、整備していくことと目指し、整備方針を「緑輝く肝高の歴史浪漫の舞台づくり」とします。

*「肝高（きむたか）」とは、沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」で見られる古語で、「心豊か」「気高い」などを意味し、高い生活文化を称えた勝連および勝連城の美称のこと。

『緑が輝く肝高の歴史浪漫の舞台づくり』

～古より受け継がれる「肝高のまち」にメンソーレ～

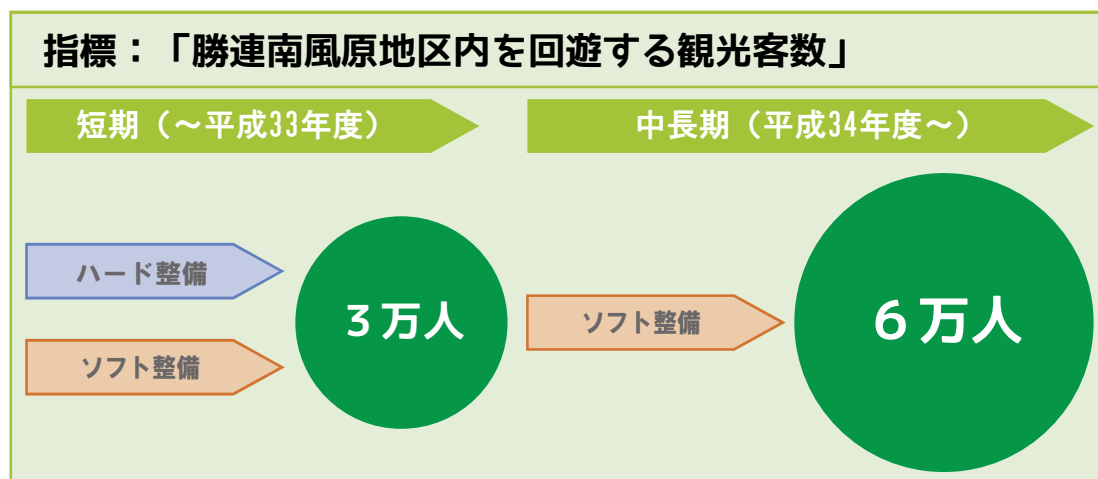
「肝高の歴史浪漫の舞台」のイメージ



7 目標値

本計画は、指標は「勝連南風原地区内を回遊する観光客数」とします。また、本計画は、ハード整備とソフト整備で計画の期間が異なるため、段階的（短期、中長期）に目標値を設定します。

短期は平成 33 年度として 3 万人を目指します。中長期の期間は平成 34 年以降として 6 万人を目指します。



8 回遊コース(モデルコース)と重点資源

効果的かつ効率的に回遊観光の実現を目指すために、回遊コース（モデルコース）及び重点資源を設定します。なお、回遊コース（モデルコース）及び重点資源は、優先的に整備を行います。



9 個別整備計画(ハード整備)・回遊観光プラン(ソフト整備)



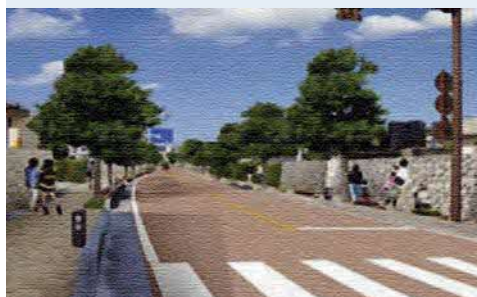
回遊路(集落内道路)

- ①回遊ルートの舗装整備
- ②ベンチなどのストリートファニチャーの設置
- ③無電柱化の検討
- ④建物や植栽などによる景観形成の整備



回遊路(県道16号線)

- ①空地を活用した歩行空間等の整備
- ②ベンチなどのストリートファニチャーの設置
- ③景観整備の促進
- ④無電柱化の促進



重点資源①:カー(集落内)

- ①湧水に触れられる親水空間の整備
- ②空地を活用した交流空間の整備
- ③周辺の景観と合わせた整備



重点資源③:御嶽・拝所

- ①アプローチの整備
- ②歴史・文化資源にふさわしい景観整備
- ③破損部分の修繕



観光サイン

- ①拠点施設への全体案内サインの設置
- ②歩行者用の誘導サインの設置
- ③必要な情報を記載した説明サインの設置
- ④観光サインのデザイン方針の作成



休憩施設

- ①回遊観光の拠点施設としての整備
- ②拠点施設にふさわしい景観整備
- ③回遊を促す付加価値の設定



まち歩きプログラム

- ①まち歩きプログラムの拡充
- ②ガイド養成の拡充
- ③継続的な案内ガイド活動への動機づけ
- ④情報発信の充実



農地の活用

- ①農業体験などの観光農園の検討
- ②花畑活用の検討



海辺や漁港の活用

- ①直売所の活用
- ②船舶の遊覧船やガラスボートの運行の検討
- ③海辺の美化活動



重点資源②:村獅子

- ①村獅子の復元または設置跡の明示
- ②資源として認識してもらうための整備
- ③景観に配慮した整備



年中行事やイベントの活用

- ①年中行事やイベントの活用
- ②駐車場の検討
- ③イベントの情報発信



地域住民の生活・文化の活用

- ①伝統的な生活文化の継承
- ②生活の中での地域資源の活用
- ③観光資源としての情報発信
- ④地域の暮らし体験



駐車場

- ①回遊の拠点となる駐車場の確保
- ②空地の利用の検討
- ③景観に配慮した駐車場の整備
- ④付加価値をつけた駐車場の整備



地域資源の維持管理

- ①定期的な地域資源の管理体制の構築
- ②地域住民による植栽等の美化活動の促進
- ③地域資源の補修・修繕の仕組みづくりの検討



沿道等の美化活動

- ①定期的な美化活動体制の構築
- ②美化活動の研修や勉強会等の開催
- ③沿道住民等の美化活動の促進



10 推進体制

本計画に位置づけた個別整備計画及び回遊観光プランを効率的かつ効果的に実施するため、以下の推進体制を整備し、地域と行政との連携・協力により回遊観光を推進します。

庁内推進組織の設置

勝連城跡周辺の回遊観光は、インフラ、景観、文化財など多様な分野と密接に関わることから、施策の総合的、一体的かつ効率的な推進を図るためには、庁内の関係部署間の連携強化が重要となります。

そのため、関係部署で構成される庁内推進組織を設置し、各部署で実施されている事業が、本計画に沿って、計画的かつ効率的に執行されるよう、横断的な連携による施策の実施や進行管理を行います。

「(仮称)かっちん南風原まちづくり協議会」の設置

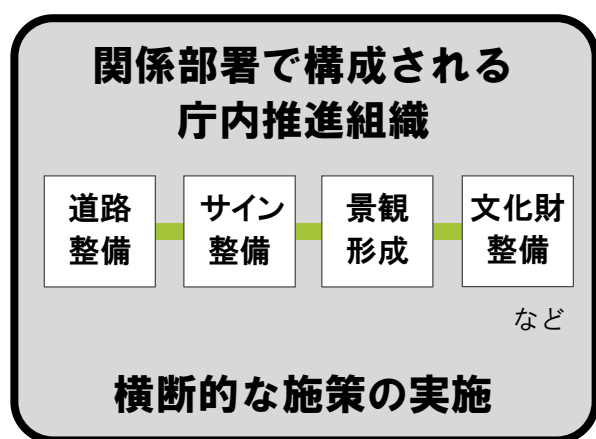
勝連城跡周辺の回遊観光を創出し持続可能なものとしていくためには、地域住民との連携・協力が重要であり、地域が主体となった回遊観光の管理・運営が望まれます。

勝連南風原地区では、既に、地域住民による観光ガイドや環境美化活動等が行われていますが、資金面や人材面から活動範囲に支障をきたしていることから、回遊観光に資する管理・運営を一体的に担う組織として「(仮称)かっちん南風原まちづくり協議会」を設置します。

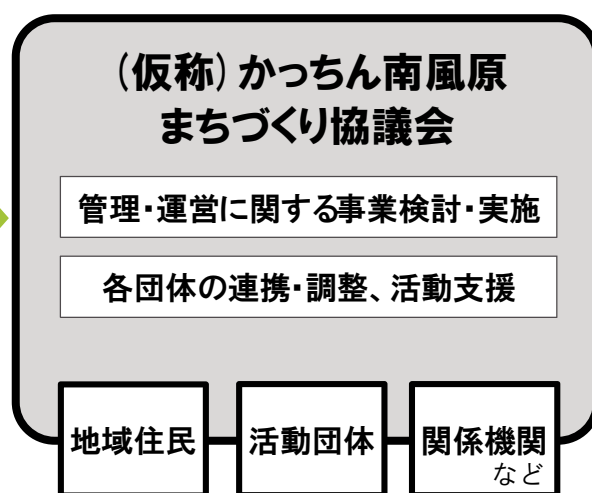
協議会は、地域住民や活動団体、関係機関等から構成され、管理・運営に関する事業を検討、実施するとともに、各団体の連携・調整や活動支援を行います。

<行政と地域住民の連携・協力による推進体制のイメージ>

行政による個別整備



地域住民による管理・運営



勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画（概要版）

自然や景観、歴史・文化等を地域全体で楽しむ「屋根のない博物館」を目指して

発行：平成27年3月

沖縄県うるま市 都市計画課

〒907-8501 沖縄県うるま市石川石崎一丁目1番

TEL (098) 965-5620 FAX (098)965-3565